

議録:令和7年度 第1回明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会(要旨)

日時:令和7年6月5日(水) 10:00~12:00

場所:恵那市役所西庁舎災害対策室

1. 開会
事務局

2. 役員選任

- 事務局:本協議会規約第6条の規定に基づき、会長及び副会長を選任する必要がある。これまでの例にならない、会長を恵那市まちづくり企画部長の鷹見健司氏、副会長を中津川市リニア都市政策部部長の長谷川真哉氏を事務局から提案。
- 委員:異議なし
- 会長:あいさつ。
- 事務局:新メンバーで1回目の会議であり、他委員からも自己紹介を依頼する。

3. 協議事項

- 会長:協議事項1について事務局に説明を求める。
- 事務局:令和6年度事業報告並びに収支決算報告について(資料1, 2)、説明。
- 会長:監事に監査報告求める。
- 監事:令和7年5月19日監査を実施し、適正に執行されていることを報告。
- 渡辺委員:明知鉄道としても様々な取り組みを行っている。今年は第三セクターとなって40周年の節目である。今年についても様々な取り組みを行う予定である。沿線の環境整備について、さまざまな方に取り組んでいただいている。他の第三セクターと比べると整備がされていると感じている。この場を借りて感謝申し上げる。
恵那市による通学定期の補助により4万人程度輸送人数が増えた。これについても感謝を申し上げる。
- 永井委員:明知鉄道の明智駅から瑞浪駅までのバス運行を行わせていただいている。バス路線についても、定期券の補助も検討いただきたい。
- 加藤委員:資料1の目標に向けた取り組みがとても分かりやすい。これがHPにないのは残念。恵那市や明知鉄道のHPを見ると、わかりづらいところが多い。せっかく頑張っているのに残念である。
シンポジウムの再生回数が少ない。シンポジウムのリンクが共有されていない。そこをリンクすると再生回数は増えるのではないかな。
- 事務局:貴重なご意見感謝する。見やすいHPを整理させていただく。
- 会長:ご意見はあるか。意見なく、承認を求める。
- 委員:意義なく承認

- 会長：協議事項 2 について事務局に説明を求める。
- 事務局：令和7年度事業計画(案)及び収支予算(案)について(資料3)、説明。
- 野田委員：使いやすい公共交通の整備がされており、他の市町村と比べても頑張っている協議会だと感じている。また、新たな取り組みの公共交通応援店舗についても、期待をしている。取り組みの中でも、すぐには成果が出ない取り組みを散見されるが、地道に頑張りたい。運転手不足等の課題については、県としても連携を行っていききたい。
- 高木委員：応援店舗の取り組みは、啓発としては強い取り組みであると考え。商工会議所として、どの企業も人材不足である。企業に対する応援の取り組みも力いていただきたい。恵那市のみのじ祭りなどで、明知鉄道を無料にして、各方面から参加できる祭りにしてほしい。それについては、企業協賛など、協力はできる。
- 藤本委員：応援店舗について、学生だけではなく免許返納をされた高齢者の方も使えるような取り組みにしていきたい。
- 渡辺委員：定期券の広告について、一つのアイデアとして検討していきたい。また、みのじのみのり祭りについても併せて検討していく。
- 事務局：貴重なご意見感謝する。ターゲットを絞ってというご意見については、見せ方などを工夫し、そのターゲットごとで提示できるようにしていく。
また、応援店舗について、商工会議所様、恵南商工会様に改めて、ご説明をしながら、連携をして進めていきたい。
- 加藤委員：ターゲットごとで、それぞれ啓発をしていくことが大切である。中学生が高校に入る前に、進路が決まる前に宣伝を。病院は、病院で啓発をしていくことが大切。
明知鉄道とバスの時刻が連携していることをもっと宣伝するべき、また明知鉄道の一日乗車券を買えば、バスも乗車可能であることは、全国でもここだけである。それをもっと前面に出して宣伝するべきである。それをみえるHPの整理を。
- 松井委員：鉄道部門についても、人材不足が課題である。情報提供となるが、国土交通省としても、問題と考えている。自衛官の職員の再就職先の一つとして、防衛省と連携をしている。
- 会長：他に意見はあるか。意見なく、承認を求める。
- 委員：意義なく承認

- 会長：協議事項3について事務局に説明を求める。
- 事務局：明知鉄道沿線地域公共交通計画(別紙)について(資料4)、説明。
- 山田委員：子どもの数が減っている。1台のバスに数台。恵那市の定期代金の補助により明知鉄道の輸送量が伸びたのは、画期的な取り組みであったと感じている。またそれに伴い、上矢作線の利用も伸びた傾向がある。また、市が配っている100円券についても地域の定着しつつあり、公共交通の利用も伸びている。この場を借りて感謝申し上げる。
それを踏まえても、人材不足等課題は多く、実績等を見ながら効率的な運行を市と連携して

行っていきたい。

- 渡辺専務：明智町内のバスを担っている。今までは曜日で区切って行っていた運行を、毎日運行に変えた。それにより利用も伸びており、今後も、市と連携してより地域に根差した公共交通としていきたい。
- 会長：ご意見はあるか。意見なく、承認を求める。
- 委員：意義なく承認
-
- 会長：協議事項4について事務局に説明を求める。
- 事務局：令和7年度 明知鉄道生活交通改善事業計画について(資料5)、説明。
本会議に出席の明知鉄道の渡辺専務に補足意見を求める。
- 明知鉄道：補足説明。
- 会長：中部運輸局鉄道部計画課の松井課長に意見を求める。
- 中部運輸局：令和6年度補正で交付決定している。適正に執行されることを願う。
- 会長：他に意見はあるか。意見なく、承認を求める。
- 委員：意義なく承認
-
- 会長：報告事項1について事務局に説明を求める。
- 事務局：令和7年度恵那市自動運転バスに関する取り組みについて(資料6)、説明。
- 会長：質問がないか確認。

4. その他

- 永井委員：東濃鉄道の明智線について、各関係団体より補助金をもらいながら運行している。しかし、補助金を差し引いた持ち出しについて、10年間で、1億1千万ほどある状況である。現状では、持続可能な運行は厳しいという見解が当社の考えである。従前より、県、関係市町村と、協議をし、方向性が決まってきましたので、報告をさせていただく。
まず1つ目について運行本数の見直しをさせていただく。19本の運行をしているところを、朝夕の学生の利用部分を除く中間部分から2割から3割程度減便をさせていただく。
経費の削減をさせていただく。また、補助金についても、関係市に増額を要望していくところである。以上で報告を終わる。
- 加藤委員：報告事項では困る。協議会から報告するべきことではないのか。あつてはならない。協議事項ではないのか。協議会が守っていくべきなのに、協議事項でもなく、姿勢が見えない。また、利用促進をするのであれば、まず名前を明智線から、明智瑞浪線に変えとか、すぐできることを、ずっと言っているのにやっていない。また、地域の方が行きたい場所に輸送できているのか。山岡の吹越線との接続にしても、吹越のバス停でなんか待てない。陶のバローまで延伸するとかできないのか。報告だけをして、補助金をあげろっていうのは、おかしいですし、やる気が感じられない。国の共創の補助金を使うなど、やるなら色々考えられる。

もっと、やる気を見せないと。

- 永井委員：いただいたご意見を関係市及び県と連携し、地域と相談しながら持続可能な路線を作っていく。
- 事務局：加藤教授貴重なご意見をありがとうございました。この件については、今後事業者、市・県と連携して、地域に入りながら検討を進めていきます。
- 副会長：閉会のあいさつ